

# ステークホルダーの皆さまへ



代表取締役社長  
当麻 茂樹

中期経営計画最終年度の平成24年度に入り、当行では同計画の着実な達成に向け全力をあげるとともに、あるべき金融機関の姿を求めて新たな分野の開拓と業績の拡大に積極的に取り組んでおります。新たな取り組みの成果も徐々に上がってきました。平成24年度上期の業績は、安定的な収益体質への回帰を裏付ける順調なものとなりました。

平成24年度上期は、欧州危機の深刻化など金融・経済の先行き不透明感がますます強まる一方、国内では大手電機メーカーの経営不振に象徴されるように、日本の産業が大きな転換点を迎える厳しい業務環境となりました。また、東日本大震災や原発事故の被災地域の本格的な復興への道筋が見えぬ中、わが国の金融機関が日本の将来を支える新たな産業の育成や地域の振興に向けて果たすべき役割が、今あらためて問われています。

中期経営計画の最終年度となる平成24年度に入り、当行は、前年度までに過去の問題処理の完了、安定的な収益体質への回帰をほぼ達成したことを踏まえ、法人向け業務、個人向け業務のいずれにおいても業績の拡大に向けて積極的な取り組みを展開いたしました。

法人向け業務では、潜在的成長力を有する企業、新たな事業領域や震災復興を含む地域経済の活性化に向けたソリューション提供への取り組みを本格化しており、また、法人向け貸出も引き続き純増するなど、顧客基盤の再構築に向けた取り組みも着実に成果を上げております。個人向け業務では、住宅ローンの拡大などに取り組むとともに、昨年10月より開始した銀行本体での本格的な個人向け無担保ローン事業（「新生銀行カードローン レイク」）も順調に拡大しております。

その結果、平成24年度中間期の連結純利益は257億円となり、前年同期の203億円から大きく増加するとともに、中期経営計画における当年度通期の連結純利益目標の510億円に対して50%の進捗と順調に推移しております。下期につきましても収益の安定的拡大にさらに注力するとともに、通期の純利益目標を着実に達成してまいりたいと考えます。

このように、安定的な収益を着実に積み上げることができましたのは、ひとえにこれまでのお客さま、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのご理解とご支援の賜物であり、心より御礼を申し上げます。

引き続き、長期的に安定的な収益力を持つとともに、真にお客さまに求められ、お客さまとともに成長する銀行グループを目指し、全力で取り組んでまいります。

今後とも皆さまの変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

**当麻茂樹**

代表取締役社長

当麻 茂樹